

第四期福島県医療費適正化計画の主な変更点（案）

1 名称

第四期福島県医療費適正化計画

2 基本理念

「全ての県民が心身ともに健康で、幸福を実感できる県づくり」

3 計画期間

令和 6 年度から令和 11 年度までの 6 年間

4 主な変更点

（1）全般的な事項

項目	ポイント	第四期計画への 反映箇所 (資料 8-2 参照)
①基本理念	・人口構成の変化を見据え、限りある地域の社会資源を効果的・効率的に活用し、医療費適正化を図っていく。	P1 第 2 章 2
②医療の担い手等との連携	・保険者協議会への医療の担い手等の参画を促進。 ・特に医療の効率的な提供の推進に関して連携を図る。	P4 第 5 章 2(2)
③保険者協議会の必置化	・都道府県医療費適正化計画の作成に加え、実績評価に関与。 ※福島県では設置済み	P4 第 5 章 2(2) ※既に記載済み

（2）目標（詳細は資料 9 により説明）

項目	ポイント	第四期計画への 反映箇所 (資料 8-2 参照)
①高齢者の心身機能の低下等に起因した疾病予防・介護予防の推進	・関係団体との連携を図り、広域連合と市町村による一体的実施を推進する。	P2 第 3 章 1(4) 2(4) P3 第 4 章 1(1)
②後発医薬品の使用促進	・数量ではなく、金額ベースで政府目標を見直す予定。これを踏まえ、令和 6 年度に目標を設定する。	P2 第 3 章 1(5) 2(5) P3 第 4 章 1(2) ※既に記載済み

項目	ポイント	第四期計画への 反映箇所 (資料 8-2 参照)
③バイオ後続品の使用促進	・ 令和 11 年度末までにバイオ後続品に 80%以上置き換わった成分数が全体の成分数の 60%以上に到達すること。	P2 第 3 章 1(5) 2(5) P3 第 4 章 1(2)
④医療資源の効果的・効率的な活用	・ 急性気道感染症や急性下痢症に対する抗菌薬処方の適正化。 ・ 白内障手術や化学療法の外来での実施など医療資源の投入量に地域差がある医療の適正化。	P2 第 3 章 1(5) 2(5) P3 第 4 章 1(2)
⑤医療・介護の連携を通じた効果的・効率的なサービス提供の推進	・ 医療と介護の両方を必要とする状態の高齢者が、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができるよう、包括的かつ持続的な在宅医療・介護を提供する。	P2 第 3 章 1(5) 2(5) P3 第 4 章 1(2)
⑥病床機能の分化及び連携の推進	・ 地域医療構想における将来の病床の必要量や、病床の機能の分化及び連携の推進のための施策を記載する。	P2 第 3 章 1(5) 2(5) P3 第 4 章 1(2)

(3) 医療費の見込みに関すること

項目	ポイント	第四期計画への 反映箇所 (資料 8-2 参照)
①制度区分別・年度別の推計	・ 後期高齢者医療制度、市町村国民健康保険、被用者保険等の推計を年度別に算出。	P4 第 4 章 3